

新刊紹介

工學博士 木村 忠雄著

油母頁岩工業

大連市紀伊町九三、中日文化協會

昭和四年十二月發行 菊版一七六頁 定價一圓五〇錢

油母頁岩工業は世界でもどちらかと云へば類の少い工業で我國には全く存在しなかつた工業であるが最近南滿洲撫順に於て本工業が勃興して始めて世人の大なる注意を喚起したのである

著者は實に撫順に於ける油母頁岩工業の勃興を促したる第一人者であり且油母頁岩の工業的利用に關する權威者である、從て其の著者がよく肯綮に當り其間屢見るが如き單なる外國書の翻譯物でないことは敢て著者の言を俟つ迄もない所である

本書は五章に分割せられ先づ世界に於ける液體燃料の趨勢に筆を起し油母頁岩工業が石油産出方法として最も將來あるものなりと論じ、繼て油母頁岩の定義、成因、性質、分布及び其の乾餾並に製油に關する原理を説明して油母頁岩工業の經營に必要な基礎的事項を示し次で世界各國に於ける油母頁岩工業の現状を詳説し且之に使用せらるゝ各種の爐式並に斯業の經濟的價值に關する考察を行ひ、最後に撫順に於ける油母頁岩の埋藏量並に品質、其の試験結果等の如き企業に到る迄の經路を詳細に記述し最近建設せられた乾餾工場の規模及び其の製品の種類並に數量を示し、本邦石油資源に貢獻する所甚だ大なるを指摘したものである

由來油母頁岩工業に關する著書は甚だ少く殊に邦文で記述せられたもの

は皆無であつたが今回、著者に依て此の好著を得たのは斯業研究者にとり裨益する所極めて大である、尙其の記述は必しも専門的に流れず、平易に記述されて居るから専門外の者にとつても亦好個の参考書である
今日液體燃料の需要は日々増加して止る所なく從て之が供給策に對し多大の考慮を煩されつゝある際此の好著を得た事は斯界の爲め慶賀すべき所である切に其の一讀を奨むる次第である (伴)

Die Oelfeuerungstechnik

II. Schönian u. G. Prandstätter, 1927.

Julius Springer, Berlin, 123, S. Y 4.00

工業用及蒸汽發生用燃料としての燃油は最も使ひ易いものであるが其産出が豊富で價格も從て廉かつた時代には其焚燒法に大した關心が拂はれなかつたが近頃の如く重油の用途が増し其有無が國運の消長に係はる様な狀況の下では殊に其供給の需要に伴はない本邦の如きに於ては之が經濟的焚燒技術の攻究は充分考慮を要する問題である

此點に於て獨逸と日本と軌を同じ居るので從來燃油特に乾餾油即タル類の利用法としての焚燒技術の發達は著しいものがある、本書は獨逸及瑞西に於ける燃油焚燒の現状を示したもので略次の様な内容である、全卷を六節に分ち第一節では燃油の種類及性状等に就いて説き第二節は燃燒論、第三節は焚燒法で主として各種のバーナーの説明をなし、第四及第五節では焚燒に必要な補助設備及測定裝置を、最後に該焚燒を應用した汽罐及工業用加熱爐の實際を述べて居るが其内でもバーナーと工業用爐型の記述に見るべきものがある、本書は一九一九年の初版に幾分の改訂増補を行つたに止まるので一般に引用文献が古い點に多少不滿を感じないでもないが此種の好著の少い現在では先づ當事者の一讀を要するものであらう

(山崎)